

日本学術会議 公開シンポジウム

「感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方」

機能分化社会から機能混在社会へ

2023年1月22日(日)10:00-13:00

オンライン開催

お申し込みはこちら <https://forms.gle/nT9krbPVwCffhDNx6>



総合司会 小野 悠 豊橋技術科学大学

開会挨拶・趣旨説明 竹内 徹 東京工業大学

第一部 実空間において起こりつつある機能混在社会の実態

暮らし方 からみるコロナ禍の変化と今後

定行 まり子 日本女子大学

働き方 からみるコロナ禍の変化と今後

渡邊 朗子 東洋大学

学び方 からみるコロナ禍の変化と今後

齋尾 直子 東京工業大学

過ごし方、楽しみ方 からみるコロナ禍の変化と今後

伊藤 香織 東京理科大学

第二部 機能混在社会における情報のあり方

生活者のケア情報 からみるコロナ禍の変化と今後

三輪 律江 横浜市立大学

公共的な情報 からみるコロナ禍の変化と今後

山本 佳世子 電気通信大学

社会インフラの情報 からみるコロナ禍の変化と今後

高橋 良和 京都大学

総合討論

コメンテーター 古谷 誠章 早稲田大学

出口 敦 東京大学

コーディネーター 伊藤 香織

閉会挨拶 竹内 徹

日本学術会議 公開シンポジウム

「感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方」

機能分化社会から機能混在社会へ

2023年1月22日(日)10:00-13:00

オンライン開催

お申し込みはこちら <https://forms.gle/nT9krbPVwCffhDNx6>



COVID-19によって住まい方や働き方など新しい生活様式が立ち現れ、建築と地域、都心と郊外、大都市圏と地方など空間の意味づけや関係性が変化している。これらの様々な変化は、「近代の建築・地域・都市が拠り所としてきた、機能主義的な社会から、空間的・時間的に機能は完全に分化せず緩やかに共存し流動する『機能混在社会』へ」という大きな変化の顕在化と捉えられるのではないだろうか。また、機能分化した建築で定義されていたコミュニティが共存・流動化した社会はデジタルインフラの普及に支えられながら進行していると考えられる。本シンポジウムでは、感染症拡大で起こった諸事象・諸対応からの学びを通して、顕在化しつつある新たな建築・地域・都市のあり方とそこに向かう方法について議論していきたい。

第一部は実空間において起こりつつある機能混在社会の実態について4つの話題から議論していく。第二部は、今後の機能混在社会において実空間とバーチャル空間をつないでいく情報のあり方について3つの話題を通して、流動化した社会の行政支援・リスク管理に必要なデジタルインフラの整備についてさらに議論を深めていく。

主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会感染症拡大に学ぶ建築・地域・都市のあり方分科会

共催：一般社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本都市計画学会、一般社団法人地理情報システム学会、一般社団法人日本計画行政学会